

星名理論と岡理論を YouTube に適用

今から 50 年以上前 Peter F Drucker の「既に起こった未来」や工程管理の手法「PERT」が普及する以前に、この理論と同様の考え方をラグビーに導入した二人の指導者がいます。

同志社大学のラグビーの黄金期を作った星名泰先生と岡仁詩先生です。

星名理論と「既に起こった未来」の類似性

未来を予測する最良の方法

Peter Drucker は「未来を予測する最良の方法は、未来を創り出すこと」言っています。不確実な未来を予測し、待つのは、受け身の態度ですが、**未来を宣言し、切り開き、創り出し、実現すること**です。この主体的思考が未来を予測する最良の方法だと、ドラッカーは言っています。

私たちの人生は私たちのもの。それはつまり、自分の人生をもっと主体的に生きられるということです。環境や問題に振り回され、支配される必要はありません。自分の意志、自分の選択次第で、未来は作り出せるのです。

ラグビーのプレーの予測

ラグビーは変化が常態です。予測した通りに進むことはまずありません。一つのプレーをする時には、当然ですが、味方の動き、相手の動きを予測しながら、自分の動きを決めていきます。敵味方合わせて 30 人が、入り乱れてぶつかり合いながら、ボールを後ろにパスをしながら、前に進むラグビーでは一人の選手の動きが予測より少し外れるだけで、予測とは大きく違う展開になります。

ラグビーでは常に起こる変化に対応するために、多様な対応が必要となり、多様性が自然と身につけてきます。**そして最も重要なことは常に起こる変化に対応だけでなく、主体的思考で自分の好ましい状況を作り出す事です。**

タックルされる場所はアタックする側が決められる。

ラグビーは本質的には地域を取り合うスポーツです。前に走っている選手の数が多く有利です。ボールは前にはパスできないので、最前線でボールを奪い合ったフォワードは攻撃になると後ろにパスがされて進むので、最初は後ろに向かって走るようになります。

防御する側は、できるだけ前でタックルして、味方のフォワードを前に走らせようとするので、タックルが行われる場所(タックルポイント)は防御側が決めると思込んでいました。

ラグビーにはボールを持っていない選手にタックルはできないという不変のルールがあります。星名先生はこのルールを適用し、**主体的思考で、極端に浅いアタックラインでボールを受ける前に、想定されているタックルポイントへ走り込む、真逆の発想**を考えだされました。

アタックする側のボックスとディフェンスする側のボックスの中間あたりに**タックルポイントを結んだタックルライン**が想定されます。それまでの発想は相手のボックスの出方に合わせて、そのタックルラインの出来るだけ手前で勝負をするために深い（相手から遠い）アタックラインが常識でした。

星名先生の理論は極端に浅い（相手に近い）アタックラインで、更に相手より早くスタートすることにより、ボールを受ける前に想定されていたタックルポイントに入り込み、相手を立ち止まらせて、勝負をする**真逆の発想**でした。

YouTube にアニメも加えて星名理論を解説しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=qktt3Vo2lyQ> （音声を大きくして聞いてください）

岡理論と工程管理の PERT 類似性

ラグビーはフォワード戦に勝つことが最も重要

岡先生はフォワード戦に勝たなければ試合に勝てないとの強い考えをお持ちでした。特にスクラムに重点を置かれ、当時はルールでスクラムは 10 人で組んでも良かったので、マイボールの攻撃の時にはボックスの二人の選手（フォワード出身）が参加し、スクラムを 10 人で組む時間帯（A アタック）を作りました。

この時間帯には、ボックスで大きく外側に展開すればトライが取れると予想できても、外側に大きく展開することをやめ、ボックスは全てのアタックをフォワード周辺に走り込み、ラックも二人数の多いフォワード周辺で戦うことを決めました。

そして全てボックスに回して勝負する時間帯（B アタック）を決めました。

戦略の実施順序の重要性

岡先生は時間帯の実施順序を A アタックから入り、その後 B アタックと決め、その時間帯、例えば A アタックの時には外へ展開すればトライが取れると予測できても、内側に入

り、バックスもフォワード戦に参加するなど戦力をFW戦に集中し、それを繰り返すことで早い時間帯に相手フォワードを粉砕する時間帯を作り、相手のフォワードの動きが止まると、今度はBアタックでフォワードもバックスのアタックに参加するなど、徹底的に外へ展開し、またAアタックの時間帯にもどし、フォワード戦に15人が集中し、フォワード戦を有利に導くものでした。

岡先生が私に言われたことは「俺はお前の判断力はわかっている。お前が外へまわし、トライを取れると判断したのであれば、必ずトライが取れると思う。しかし、その時間帯に必要なことはトライを取り、ゴールキックなどで敵のフォワードに休みを与えるのではなく、連続して全員で集中的に繰り返しフォワード戦を行い、敵のフォワードを完璧に消耗させ、後半の後半に勝負をすることだ」。

これはすごいことだと思いました。

スクラムを二人多い10人で組み、そしてバックスに回すとインサイトセンターの私がフォワードに向かって走り込み、相手のフォワードにタックルをされながら味方のフォワードにパスをすると、その次のラックは7人の相手フォワードに対し、10人のフォワードで戦うことができるからです。

このような体験をしていたので、卒業してPERTの理論の存在を知った時、岡先生の理論と似ていると感じ、やらなければならない作業(Project)の全体像と完了までの時間をイメージして、その実施順序と集中して繰り返すことで効率を上げることを意識するようになりました。

星名理論と岡理論をYouTubeに適用。

YouTubeを始めた時も、この星名先生の主体的思考と岡先生のプロジェクト(作業)の実施順序の考え方を適用させてもらいました。

まず私はラグビーの試合時間やプロジェクトの完了時間に相当する期間を3年間と決めました。

そしてラグビーのフォワード戦にあたるインターネットビジネスなどで最も重要なことはSEO(検索エンジン最適化、Googleの検索で上位に表示される事)で、これにはまず、動画の投稿数を圧倒的に多くするのが良いと判断したので、まず1万本の動画の投稿を目指しました。

一応YouTubeの視聴回数の稼ぎ方などいろいろなチャンネルで勉強しました。

ほとんどの意見がYouTubeに投稿するのは、多くて1日1本。通常は1週間に2本か3本というのが圧倒的でした。

私はまず検索に使う言葉をチャンネルのタイトルに入れることを考えました。

YouTube が検索しやすいように、チャンネルのアドレスをアルファベットと数字の組み合わせたハンドルネームが申請できることを発表しました。

私は受付開始の日に **sunset111** を申請し認証してもらえました。これは全くの偶然ですが、シッチェスは夕陽が非常に綺麗です。私の名前 **Yuji** はスペイン語でユーヒと発音するからです。数字は愛犬ルディの誕生日が 1 月 11 日なので **111** とすることにしました。

タイトルにも **rugby sitges sunset** を入れて、ブログや **Twitter** 等にも入れて多い時には一日に **100** 本近く投稿を繰り返しました。YouTube は 1 日の投稿数が **100** を超えると、ペナルティーで翌日の投稿はできません。

その結果タイトルを変更して半年もたないうちに、**sunset 111** を入れるだけで、Google の検索の結果のトップと 2 番目は、私の YouTube で、ブログや **Twitter** などで上位をほぼ独占するようになりました。

これは結構すごいことだと思っています。私の検索は全てアルファベットと数字だけですの
で、検索対象は世界中と言うことになります。

例えば **sunset111 dog** と入れるだけで、私の YouTube の犬の動画が Google のトップにリストアップされます。また私のラグビーの後輩が **kiyomasa** という名前の犬の動画を送ってくれたので **kiyomasa** をタイトルに入れてアップロードしたところ、**sunset111 kiyomasa** と入れるだけで検索のトップや上位に彼の動画が続きます。

インターネットの世界に国境はありません。私のチャンネルの視聴者はスペイン語圏は **25%**位で日本とほぼ同じです。

そしてこれからの情報はライブ(**live**)で双方向(**interactive**)になっていくと思います。

YouTube の動画をライブで配信する数を多くすることにしました。タイトルは **Sitges live news** で毎日ビーチ周辺の様子を **1-2** 分のライブで配信しています。

現在の投稿数 **18802** 本

登録者数 **1150** 人

視聴回数 **604160** 回

2024 年 10 月 16 日 現在